

## 分科会からの提言

11月4日（木）、5日（金）に、村民のべ16人、村外スローライフ学会会員6人、zoom参加4人で、「多様な暮らし」「観光を多彩に」というテーマで話し合いました。小さな子ども達も参加、真剣でかつ和やかな会議となりました。皆さんから出た意見を、6項目にまとめました。



### <提言6つ> 守りたいこと、これからのこと。

#### [1] 山での子育てを楽しもう

- ・子どもたちが大声で挨拶する。近所が「子ども、みといたるで～」と声をかけてくれる。そんな環境がいい。
- ・5歳の子が地下足袋で1000m級の山に登ったりできる。戻ってくると目が輝いている。親の考え次第で山で遊べる。
- ・小さな集落に子どもたちがいると賑やか、イモ堀りも稲刈りも移動保育所みたい。「いもたばり」の行事もやっている。

#### [2] 人の繋がりを大事にしよう

- ・人口が少ないのに、都会より人と交流できる。都会では何でも一人でやらなくてはならないが、ここでは一緒に歩いていく。
- ・「あげる」文化がある。あげるために野菜を作る。もらえば自分もあげたくなる。急峻な土地で厳しいから、人がやさしい。
- ・自主自立の村。決めたら自分たちで実行する。なかったら、みんなで作ればいい。「ゆい」の文化を次世代にも伝えたい。

#### [3] 伝統と自然を大切に

- ・在来種の作物「ムコダマシ」という餅粟や「十津川高菜」を作っている。各地で少しずつ違う伝統の「ゆうべし」も美味。
- ・盆踊りの曲が沢山あり字ごとに違う踊り。8割の人が踊れる。村民が張り切る手作り駅伝が66回も続いている。
- ・日本一広い村だから日本一の自然がある。夜、空を見ると全部星。蛍も珍しい花も。そして世界遺産が二つも。

#### [4] 広いからいい、不便だからいい

- ・一日では回れない、だから立ち止まる観光を。滞在して、ご飯を炊いたり川で遊んだり、誰かに一日お任せする、そんな体験も。
- ・アクセスが悪い分、落ち着いてワーケーションをするのにいい村。仕事ができる環境がある。SNSなどをもっと活用し発信しよう。
- ・ここの暮らしそのものが素敵。サッと回れないから、何かを見るのではなく、ゆっくり暮らしの魅力をおすすめ分けしてもらえる。

#### [5] 心と身体の健康をうたおう

- ・健康や身体づくりをテーマに。コロナ禍で屋外の遊びに注目が。「源泉かけ流し」の上質の温泉も村民は当たり前もっと発信を。
- ・自分の辛い気持ちを発散させるところが身近にある。温泉や山。来訪者も疲れた心を癒し和んだと言って帰る。
- ・哲学的に教えてもらえる。自分修行の旅ができる。裸の自分と付き合ってもらえる村。

#### [6] 力を借り、維持し、稼ごう

- ・都市部の人汗を流して手伝ってくれ、それで癒されると喜んで帰る。外の力で村を維持する仕組みがあれば。
- ・お土産や地域の新しい産物を作ろう。そして関わった人たちがきちんと報酬を得られるようにしていこう。
- ・自然は無料で手に入っている都会の人に、維持する苦勞をきちんと伝える。この村にビジネスチャンスはいろいろある。

## スローライフ・フォーラム in 十津川

# 「むら」に生きる

新型コロナウイルス感染症が落ち着きを見せはじめ、あらためて「ゆっくり、ゆったり、心ゆたかに生きる」というスローライフの考え方が見直されています今回は、移住者が増え始めた奥大和・十津川村で開催します。

■日時：2021年11月21日（日）10時～

■場所：「十津川村民ひろば」（十津川村大字折立285）

平谷地区

### プログラム

9:30	開場		(敬称略)
10:00	開会		
	司会	長谷川 八重 (スローライフ掛川)	
	挨拶	奈良県知事 荒井 正吾	
	歓迎の言葉	十津川村村長 小山手 修造	
10:10	基調講演		
		『「むら」に生きる～コロナと向き合いながら』	
	講師	中村 桂子 (JT生命誌研究館名誉館長、スローライフ学会副会長)	
10:50	分科会からの提言		
	発表者	平瀬 肇万、三浦 貴和子	
	アドバイザー	室崎 千重 (奈良女子大学准教授)	
11:00	休憩		
11:10	パネルディスカッション 『「むら」に生きる』		
	コーディネーター	増田 寛也 (東京大学大学院客員教授、日本郵政代表取締役社長 スローライフ学会会長)	
	パネリスト	荒井 正吾 (奈良県知事) 小山手 修造 (十津川村村長) 神野 直彦 (東京大学名誉教授、スローライフ学会学長) 坪井 ゆづる (朝日新聞論説委員) 中村 桂子 (JT生命誌研究館名誉館長、スローライフ学会副会長) 野口 智子 (ゆとり研究所、NPOスローライフ・ジャパン副理事長)	
12:30	閉会		

※ コロナウイルス感染予防に関するお願い～会場内では、三密の回避、マスク着用、手指消毒、検温にご協力ください。

主催：奈良県 協力：十津川村、スローライフ学会



## ごあいさつ

「スローライフ・フォーラム」が再び奈良県において開催されますことを大変嬉しく思います。新型コロナウイルス感染症の拡大により、これまでの働き方やライフスタイルが一変し、新しいスローライフの考え方が見直されています。

奈良県南部・東部において脈々と守り続けられてきた地域の風土、歴史、文化に根ざしたライフスタイルが、デジタル化の新しい流れを受けてその魅力が広く認知されてきました。

このフォーラムにおいて、ご参加の皆様と共に、「むら」に生きる意義について語り合うとともに、新しい地域の振興や移住等について考える良き機会になることを期待します。

奈良県知事 荒井 正吾



## 開催にあたって

奈良県は「村」を12も残し、大切に育ててきた。その「むら」を徹底してみつめたい、考えたい。この20年、地域活動に取り組んできたスローライフ学会と NPOスローライフ・ジャパンは、2013年に、川上村でフォーラムを開いた。テーマは「むらに暮らす」だった。

そして、きょう、十津川村でのフォーラム。「むらに生きる」。十津川村は、日本でもっとも大きい村。美しい村、歴史をもつ村…。そこでこそ、あらためて「むら」をつきつめたい。ゆったり、ゆたかに。このスローライフのこころとも考え合わせながら。

いま、コロナ事態が、全世界を揺さぶり、まさに、生きる、を問いかけている。絶好の機会。十津川村のみなさん、ともに、語り合いたい。

スローライフ学会・NPOスローライフ・ジャパン理事長 川島 正英

## 基調講演 『「むら」に生きる ～コロナと向き合いながら』



なかむら けいこ  
**中村 桂子**

(JT生命誌研究館名誉館長)

東京生まれ。理学博士。東京大学理学部化学科卒。同大学院生物化学修了。三菱化成生命科学研究所人間・自然研究部長、早稲田大学人間科学部教授、大阪大学連携大学院教授などを歴任。1993年～2002年3月までJT生命誌研究館副館長。2002年4月～2020年3月までJT生命誌研究館館長。スローライフ学会副会長。著書に、『中村桂子コレクション いのち愛づる生命誌Ⅰ～Ⅵ』（藤原書店）、『「ふつうのおんなの子」のちから』（集英社クリエイティブ）、『小さき生きものたちの国で』（青土社）、『科学者が人間であること』（岩波新書）『生命誌とは何か』（講談社学術文庫）、『言葉の力 人間の力』（佼成出版社）など多数。



## パネルディスカッション 『「むら」に生きる』

### パネリスト



あらい しょうご  
**荒井 正吾**  
(奈良県知事)

奈良県大和郡山市生まれ。東京大学法学部卒。1968年運輸省入省。1993年運輸省観光部長、1995年運輸省大臣官房審議官。運輸省鉄道局次長、運輸省自動車交通局長、海上保安庁長官、などを歴任。2007年奈良県知事に、現在4期目。



こやまて しゅうぞう  
**小山手 修造**  
(十津川村村長)

十津川村大字風屋生まれ。神戸大学経営学部卒。1987年、野村證券株式会社入社。2016年、野村證券株式会社東京本社次長を最後に退社。同年、十津川村副村長就任。2021年3月、十津川村長 初当選。



じんの なおひこ  
**神野 直彦**  
(東京大学名誉教授)

埼玉県生まれ。東京大学経済学部卒。1969年日産自動車入社。1983年大阪市立大学経済学部助教授に。1992年より東京大学大学院経済学研究科・経済学部教授、2003年～2005年東京大学大学院経済学研究科長・経済学部長、2009年より関西学院大学人間福祉学部教授、2008年より地方財政審議会会長、2017年より日本社会事業大学学長などを経て、現在に。税制調査会会長代理。スローライフ学会学長。著書に『「分かち合い」の経済学』（岩波書店）、『経済学を悲しみを分かち合うために：私の原点』（岩波書店）など多数。

なかむら けいこ  
**中村 桂子**  
(JT生命誌研究館名誉館長)



つばい ゆづる  
**坪井 ゆづる**  
(朝日新聞論説委員)

奈良市生まれ。早稲田大学法学部卒。1982年、朝日新聞入社。長野、北海道勤務のち、政治部、論説委員、編集委員、論説副主幹を経て、2012年から東北復興取材センター長・仙台総局長。京都大学法学部客員教授も。16年に論説委員に戻り、18年から月刊「素粒子」担当。日本自治学会理事・企画委員長。



のぐち ともこ  
**野口 智子**  
(ゆとり研究所所長)

千葉県生まれ。編集事務所を経て、ゆとり研究所。商店街活性化、観光おこしなどに関わる。奈良県南部東部には2012年から関り、十津川村谷瀬の「ゆとり散歩道」や、寄合をコーディネート。同村「山っ子プロジェクト」も。総務省・地域力創造アドバイザー。ふるさと財団・地域再生マネージャー。



### コーディネーター



ますだ ひろや  
**増田 寛也**

(東京大学大学院客員教授、  
日本郵政代表取締役社長)

東京都生まれ。東京大学法学部卒。1977年建設省入省。河川局河川総務課企画官、建設経済局建設業課紛争調整官など。1994年建設省退職。1995年岩手県知事、3期。2007年総務大臣。2009年野村総合研究所顧問。2020年日本郵政株式会社社長就任。スローライフ学会会長。著書に、『地方消滅 東京一極集中が招く人口急減』（中央公論新社）『東京消滅一介護破綻と地方移住』（中央公論新社）など。

### 分科会アドバイザー



むろさき ちえ  
**室崎 千重**  
(奈良女子大学准教授)

京都府生まれ。神戸大学卒業後、建築設計事務所勤務等を経て、現職。専門は福祉住環境学、地域計画。十津川村には紀伊半島大水害後の生活復興調査より関わる。谷瀬集落へ2014年より研究室の学生と通い、集落住民と一緒に村づくりに取り組んでいる。